

今回は、播種～育苗管理についてです。本田移植後の良好な初期生育につなげるためには、健苗移植が重要です。各管理のポイントをつかみ、健苗を育成しましょう！

－播種時のポイント－

「均一播種」と「130～140g/箱のうすまき」で健苗育成の開始！！

- ①芽の伸ばしすぎは播種時のばらつきにつながるため、催芽時にハトムネ程度に仕上げてください。
- ②もみは、握っても手につかない程度まで水を切ることで、均一に播種されます。
- ③「あつまき」にするほど軟弱徒長苗になりやすくなりますので、適度な「うすまき」で健苗育成を行いましょう。

【播種量の目安】

苗の種類	播種量 (1箱当り)		必要箱数 (10a当り)
	乾もみ	催芽もみ	
稚苗	130～140g	160～170g	16～18箱

【播種密度の目安】



催芽粉120g



催芽粉160g



催芽粉180g

－土の準備と育苗期病害防除－

【培土を使用する場合】

分類	品名	袋	1箱当り使用量	1袋のできる箱数
床土	ホーネンス培土	20kg	2.8kg	約7箱
覆土	川西床土 又は 育苗床土 (ホーネンス)	20kg	1.25ℓ (1.2kg)	約16箱

【床土を作る場合】

分類	品名	袋	1箱当り使用量	1袋のできる箱数
床土	川西床土 又は 育苗床土 (ホーネンス)	20kg	2.5ℓ (約2.5kg)	約8箱
	ピートモス	50ℓ	0.8ℓ (4.5合)	約62箱
	稚苗用苗代配合	10kg	25～30g	約400箱
覆土	川西床土 又は 育苗床土 (ホーネンス)	20kg	1.25ℓ (1.2kg)	約16箱

【育苗期の病害防除薬剤】

薬剤名	規格	処理方法	1規格のできる箱数	適用病害名
カスミン	粒剤	3kg 覆土混和 1箱当たり 15～20g	約150～200箱	褐条病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病
	液剤	500ml 播種後、覆土前灌注 1箱当たり 4～8倍液 50ml	約40～80箱	苗いもち、褐条病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病
タチガレース M 粉剤	1kg	育苗箱土壌に均一混和 1箱当たり 6～8g	約125～166箱	苗立枯病、ムレ苗
ダコニール粉剤	3kg	育苗箱土壌に均一混和 1箱当たり 15～20g	約150～200箱	苗立枯病

【育苗の流れ】

☆出芽期

管理方法		
温度管理	日中	30 ~ 32℃
	夜間	
日数	加温	2 ~ 3日程度
	無加温(ハウス)	5 ~ 7日程度
	無加温(露地)	7 ~ 14日程度
灌水は行わない		
終了目安	出芽長 0.5~1cm	

※注1 管理方法によって出芽にかかる期間が異なるため注意する。
 ※初が露出した場合は覆土を追加する。

☆緑化期

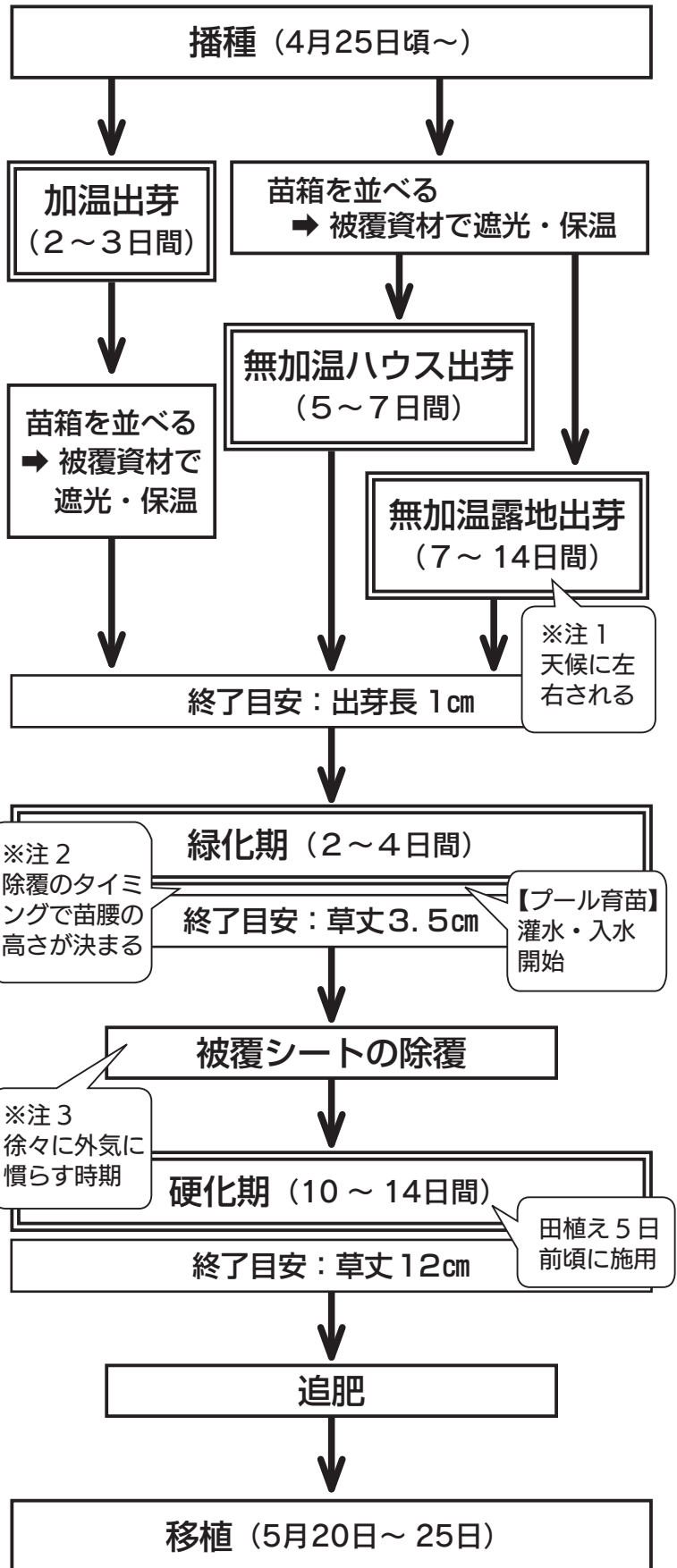
管理方法		
温度管理	日中	20 ~ 25℃
	夜間	15 ~ 18℃
日数	2 ~ 4日	
灌水方法	箱周辺が乾いたら午前中にたっぷり行う。	
終了目安	第1葉の完全展開、草丈 3.5cm	

※注2 被覆資材は第1葉の完全展開(草丈 3.5cm)を目安に除覆する。
 ※除覆の遅れは徒長苗の要因となるため注意する。

☆硬化期

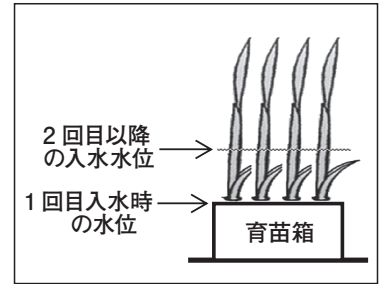
管理方法		
温度管理	日中	15 ~ 20℃
	夜間	10 ~ 15℃
日数	10 ~ 14日	
灌水方法	1日に1~2回、午前中にたっぷり行う。(夕方を避ける)	
終了目安	草丈 12cm	

※注3 硬化期の前半は8℃以下の低温や20℃以上の高温にならないように注意する。



ープール育苗の管理ー

- ・緑化期終了まで同様の管理です。
- ・初めの入水は硬化初期(1.0～1.2葉)に行い、育苗の床土面まで湛水してください。
- ・減水により、水深の浅い所で育苗の1/3以下になったら、草丈の半分以下まで湛水する。移植前まで同様の管理を繰り返してください。
- ・低温が予想される場合は、一時的に深水管理を行いましょう。



◎近年見られる育苗期障害

障 害	症 状	原 因
もみ枯細菌病	鞘葉、種子根ともに伸長しない	浸種、催芽、出芽時の高温 (特に加温育苗は注意)
褐条病	褐色条斑が鞘葉～葉身にかけて現れる	育苗中の高温・多湿条件で発生しやすい
ムレ苗 (ピシウム菌)	完全葉が2葉になった頃、葉身が急に巻き始め、次第に周囲に広がり枯死する	緑化期以降の低温

◎苗立枯病（苗立枯れを生じさせる病菌とその特徴）

菌の種類	症 状	原 因
フザリウム菌	地際部に白色、または淡紅色のカビ	播種後の低温 乾燥⇔多湿の繰返して発生しやすい
リゾープス菌	地上部に灰色のカビ	出芽温度35℃以上で発生しやすい (多湿条件でも)
トリコデルマ菌	床土に白カビ、その後、青緑色のカビに変化	出芽温度25～35℃で発生しやすい

※プール育苗は、もみ枯細菌病、苗立枯病の発生を減少する働きがあります。

注意!!

育苗期の病害が増加傾向です。タチガレエース M 粉剤やダコニール粉剤などの薬剤処理を徹底しましょう。



－被覆資材－

材質により異なった特徴を持ちます。また、異なったシートを2重に被覆することで、安定した効果を発揮します。

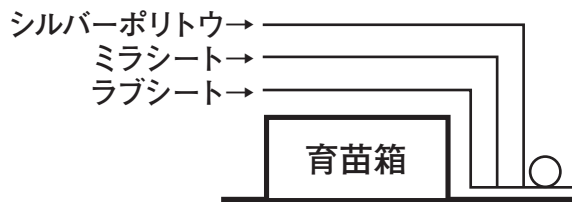
【被覆資材特徴一覧】

資材名	効果	特徴及び注意点
ラブシート (不織布)	保温 通気 通水	単独で使用すると過乾燥しやすい。他シートと組み合わせて使用する場合は、ラブシートの上に他シートを被覆する。
ミラシート (白スポンジ系)	保温 保湿	保温効果に優れ、低温が予想される際は有効である。反対に温度が高い場合は床土温度が上昇しやすいため苗ヤケの発生に注意する。
シルバー ポリトウ# 80 (ポリ+アルミ複合)	保温 保湿 遮光	表面のアルミにより遮熱効果があり床土の高温防止に役立つ。また、低温時にも保温効果が期待できる。被覆する際は表裏を確認する。

【被覆例】

- ・ミラシート + ラブシート
- ・シルバーポリトウ + ラブシート
- ・シルバーポリトウ + ミラシート 等

【被覆シートの掛ける順番】



★太陽シート（反射シート）

ハウスで無加温出芽を行う方のみ

太陽シートは表面がキラキラしており、反射率が高いためシート内の温度が上がりにくく、苗ヤケが起きにくくなります！！

◎ 緑化期のヤケ苗に注意！

緑化期はヤケ苗になりやすいため、好天日は温度管理に注意しましょう。また、被覆シート上にたまった水は温まるとヤケ苗を助長するため、降雨後は速やかに落としましょう。

◎ 高温時は早めの灌水を！

緑化期に高温になるとヤケ苗が助長されます。ヤケ苗が心配される場合は、早めの灌水・入水（箱下にひたひた程度）を行いましょう。

携帯メール会員募集！！

無料（通信料は除く）でタイムリーな生育状況や緊急情報をメールで配信しています。

登録の仕方がわからない方は、携帯を持って普及指導課にお越しください。こちらで登録いたします！

登録は下記メールアドレスへ空メールを送信

beikoku@haisin.jp

または、右記QRコードをご利用ください。➔



予告

次回のおいしい米づくり情報は、本田作業等について掲載する予定です。

ご不明な点等がございましたら JA 普及指導課 (TEL777-3786) までお問い合わせください。